

● 教職員の動き <平成23年7月> (就任)



助手 高宮 里沙

6期生として卒業し、3年の臨床経験後、7月より成人保健看護の助手として着任しました。明るく楽しく学生と関わっていききたいと思っています。まだまだ半人前なので、勉強して頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

● 退職 <平成23年11月>

退職 助手 伊良波 理絵

お知らせ

○平成21年度採択「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想 FD&CSD研修会 「自立したナースを育てるリーダーシップ -褒めて叱って、教えて考えさせる-」 日時:平成24年2月27日(月) 午後4時より午後6時 場所:沖縄県立看護大学 *参加費無料 詳しくは大学ホームページをご覧ください。

平成24年度のイベント

- オープンキャンパス2012 7月28日(土)
● 第14回看大祭 9月22日(土)~9月23日(日)

平成23年度後半の主な大学行事 (平成23年9月~平成24年3月)

- 9月10日(土) 大学院入試
● 10月 3日(月) 後期授業開始
● 11月19日(土) 特別選抜入試(看護学科)
● 11月19日(土) 推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻)
● 12月13日(火) 卒業論文発表会
● 1月14日(土)・15日(日) 大学入試センター試験
● 2月 7日(火) 一般選抜入試(別科助産専攻)
● 2月25日(土) 一般選抜入試(前期・看護学科)
● 3月12日(月) 一般選抜入試(後期・看護学科)
● 3月15日(木) 卒業式

かせかけとは

琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通するものであろうと、広報誌の名称にしました。



琉球古典舞踊「かせかけ」に用いる道具

沖縄県立看護大学

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
TEL (098) 833-8800 (代表) FAX (098) 833-5133
http://www.okinawa-nurs.ac.jp
編集 沖縄県立看護大学/広報・情報専門部会
発行 2011(平成23年)11月30日

Search box with text '沖縄県立看護大学' and a '検索' button.

かせかけ

沖縄県立看護大学広報誌 2011(平成23年)11.30

No. 19

Okinawa Prefectural College of Nursing



CONTENTS

- 始動 新カリキュラム
● カリキュラムの改正:新カリキュラムの特徴2
● 新科目紹介
● 看護大学ゼミナールI3
● 早期体験実習3
● 看護大学の窓口 事務局学務課紹介3
● のぞいてみよう看護大学4
● 卒業生の今5
● 学生コーナー6
● 第13回看大祭
● オープンキャンパス2011
● 沖縄赤十字病院でのボランティア
● 大学院修了生にさく~院生生活を振り返って~7
● 発見! 沖看大のおもしろスポット7
● 教職員の動き8
● お知らせ8
● ケアリング・アイランド九州沖縄構想 FD&CSD研修会8
● 平成24年度のイベント8
● 平成23年度後半の主な大学行事8



波照間島と石垣島研修、ケアリング・アイランド九州沖縄構想学生コンソーシアムのメンバー。

始動!! 新カリキュラム

カリキュラムの改正：新カリキュラムの特徴

学部長 嘉手苺 英子

本学では、平成23年度から新カリキュラムを導入しました。カリキュラムは、大学4年間で学ぶ授業科目を体系的に編成したもので、どのような授業科目をどのように編成するのかは、その大学の教育理念や教育目的、目標によって決まります。沖縄県立看護大学は、人間性豊かな、科学的な看護を実践できる看護専門職者の育成を目指して、平成11年に開学しました。現在、我が国の大学においては入学生の背景や基礎学力の多様化が指摘されている一方で、学士課程教育に見合う学習成果が強調されるようになりました。さらに看護大学には、看護専門職として生涯学び続けていける力を育てることも期待されています。大学の目的・目標は変わっていませんが、看護を取り巻くこのような社会や看護教育状況の変化に対応して、2年間をかけてカリキュラムの見直しを行い、今回の改正に至りました。

新カリキュラムの特徴は以下のとおりです。

まず、専門科目を、看護実践の基礎およびあらゆる発達段階の人々の看護に共通して必要な知識・技術・態度を学ぶ「広域・基盤看護科目」と各発達段階に特有の看護実践に必要な知識・技術・態度を学ぶ「生涯発達看護科目」に区分しました。これによって、領域を超えて教員が協働して担当する科目が増えました。2つめは、グループ学習を中心としたゼミ形式の科目を1年次から4年次まで設定したことです。各段階における課題に主体的に取り組んでいくプロセスをとおして、チームワーク力や問題解決能力を学習します。3つめは、教養科目に沖縄の地域特性を学ぶ科目や言語表現能力を高める科目などを設定したことです。さらに、国際的視野で活躍できる看護人材の育成という教育目標に対応すべく、島しょ保健看護または国際保健看護のいずれかを必修とし、学生全員がいずれかの科目を履修するようにしました。4つめは、授業時間数が増加したことです。卒業要件の単位数は130単位と従来と同じですが、時間数として約1割増えました。これは、講義と演習を組み合わせた科目や演習の科目が増えたことによるものです。

全体的には、学生の主体的学習と教員の協働連携による教育活動が強化されたカリキュラムだと言えます。カリキュラムがうまく機能し成果を生み出していくためには、学生および教職員の積極的な取り組みと、臨地実習を受け入れて下さっている実践現場や地域住民の方々の協力が不可欠です。

今回のカリキュラム改正を機に学部教育のさらなる充実をめざしたいと考えています。

新科目 紹介

看護大学ゼミナールI

科目責任者
金城 芳秀

平成23年度から、本学では「看護大学ゼミナール I」を導入しました。“学び方を学ぶ”というフレッシュマンセミナーです。少人数制で、教員1人が学生8人を受け持ちました。学年進行とともに「看護大学ゼミナールII」、「看護大学ゼミナールIII」へと展開します。

学生は身近に感じている問題を取り上げ、その解決に向けてグループワークを行います。その過程を通して、課題発見力、情報収集力、批判的思考力、プレゼンテーション力など、情報リテラシーの基礎を固めます。教員とのコミュニケーション（報告・連絡・相談）やグループ内での役割分担など、教員は学生の主体性を引き出せていきましょう・・・。

終始、笑いの絶えない科目でしたが、“科目責任者の指示・連絡が伝わらず、学生間で補いあった”“学生との関わり方が教員間でばらばらだった”など、さっそく学生の指摘が届いています。科目責任者がしっかりすべき点は明確です。

学生全員の授業評価をきちんと受け止め、担当した教員にフィードバックしながら学びが多い科目にしていきたいと思っています。



早期体験実習

1年次
宮良 いおり

去る7月、私は、「早期体験実習」を行うために、粟国島の村役場へ行ってきました。保健師に同伴した実習では、主に断酒会の皆さんと交流を行ったり、母子活動に触れる機会がありました。その中で、私は、離島で保健事業を行うことの大変さを深く感じる事ができました。しかし、粟国島という離島だからこそある「人との深い繋がり」や、多くの自然に囲まれている環境を用いて行える保健事業がありました。粟国島だけではなく、色々な地域において抱えている健康問題は異なってきます。その健康問題に対して、自分自身がどのような能力を磨き、その能力を保健事業または医療にどのように活かしていくかを常に考えることが大切だということを、この実習を通して学びました。



看護大学の窓口

事務局 学務課紹介



課長：安次 富均

課員に業務をお任せして、安心して事務局生活を送っています。学務課自慢の陣容は、職員だけでなく賃金職員も粒ぞろい！今後も先生方や学生の力になっていきたいと考えております。

主査：宇根 良享

学部と別科の履修に関することや国家試験に関する業務、各種証明書の発行などの事務を担当していますので、何かありましたら、気軽に声をかけてください。

主任：玉城 辰也

入試に関することや、(独)日本学生支援機構奨学金、その他各種奨学金の手続き及び紹介などを行っています。気軽に窓口に来て相談してください！

主任：重久 舞子

大学院に関する事務や学生の実習に関する事を担当しています。学生の皆さん、毎日、楽しく過ごしていますか？学生時代は勉強だけではなく、たくさんの人との関わりを充実させることが、仕事に就いた時に様々なことで生かされます。よく学び、よく遊べ！

嘱託：山城 純子

今年から新設されたポストで、学生の進路や就職に関する事をを中心に、先生方や学生のお役に少しでも立てるよう、日々業務を行っています。困ったことがあればいつでも学務課へご相談ください。

私たち、看護大学で
こんなことを学んでいます！

患者さんの気持ちや生活に関心を向けることの大切さ

3年次 宮城 保将

宮城さんは、6月に行われた成人保健看護実習に参加した。この実習は、沖縄県内の医療機関で入院治療の必要な成人患者を受け持ち、社会復帰や在宅ケアを視野に入れた看護を学ぶことである。「実習に行って、僕がまず驚いたのは、1人の患者さんに対して、看護師の他に、色んな医療職種の方々が関わっていたことでした。そして、その医療職種の方々が連携を密にとって協力し合いながら、その患者さんのQOL(Quality of life)を向上させるために取り組んでいることを学び、医療って看護師だけではなく、医師だけでなく、チームで行っているんだなということを実感しました」と話す宮城さん。また、「僕が受け持った患者さんは、ひとつの病気だけではなく、他にも病気をもっていた方でした。その病気の原因を掘り下げて考えていくと、患者さんの生活が病気を引き起こしていたということが解ったんです。だから、看護を行うときには、疾患だけに興味を向けるのではなく、その人の生活にも目を向ける必要がある。授業では習いましたが、実習で体験してみて、その大切さが解りました」と実習を振り返る。「患者さんに食事介助をしたのですが、むせ込みそうな患者さんに何が何でもご飯を食べてもらわないといけないという思いが強く、「下を向いて、ゆっくり食べて下さい」と何度も言いながら介助をしました。その日のカンファレンスで『今日の食事介助はとてうまくいったと思います』と発言したのですが、実習指導の教員から、患者さんの気持ちを考えながら食事介助をしたのか、あなたの押しつけだったのではないかと指摘を受けました。それで、ハッとしたんです。僕は患者さんの気持ちを考えていなかった。結局、患者さんに食事をするのを押しつけていたんですね」と苦い体験からも大切なことを学んだ。

看護師を目指して看護大学に入学した宮城さんですが、もっと遊びたいという思いが強く、勉強に対して意欲的になれない時期もあった。しかし、実習で受け持った患者さんが複数の疾患をもちながらも懸命に生きようとしている姿を見て、こんなにかんがっている人がいるのに、自分自身はどうなのだろうかと何度も自分に問いかけたという。臨地実習は、看護を学ぶだけではなく、自分を見つめる機会にもなるようだ。看護大学では、4年次になると学生は卒業論文に取り組むが、「この実習を終えて、卒論で取組みたいテーマが見つかったんです。将来、やりたいことははっきりしてきました」と語る宮城さん。明確になった目標に向かい、さらに学ぶ日々が続く。



宮城保将さん



これから食事の配膳を行うところ。



電子カルテから看護に必要な患者さんの情報を収集しているところ。

大変なこともあるけど、楽しいです

独立行政法人那覇市立病院
内科病棟 看護師 有賀郁子(7期生)

那覇市古島に位置する那覇市立病院。有賀さんは、この病院の内科病棟で看護師として勤務しており、今年で3年になる。現在、日々の看護業務で医師や薬剤師、栄養士などの多職種との調整を行うリーダーとしての役割を果たすほかに、プリセプター*として新人看護師の教育指導を行っており、患者さんに最良の看護を提供できるよう奮闘しながら、新人看護師の最も身近な先輩として後輩の育成にも力を注ぐ毎日を送っている。

「入職して1年目は、患者さんのケアをすることだけで精一杯。自分のことだけに集中していればよかったんです。先輩が色々と助けてくれましたから。でも2年目になり、さらに3年目になるとリーダー業務やプリセプターの役割を任せられるようになり、自分のことだけではなく、一緒に勤務する看護師のメンバーや1年目の後輩のことを考えて動くことが求められるようになりました。自分のことは全部後回しにしても、後輩に付き合ったこともあり。とても大変でした。でも、後輩がどんどん成長しているのがわかり、とても嬉しいです」と有賀さん。後輩の相談はメンタル面や生活面まで及ぶという。多忙な病棟勤務の中で、1秒でも長く患者さんとの時間をもったり、多職種との調整の時間をつくりたい、そんな看護の現場では、新人看護師の一日も早い成長こそが先輩たちの願いでもある。

さて、今後については「具体的には考えていませんが、臨床が好きだから、臨床でがんばりたいと思っています。大学院に進学して、看護の専門性を深めてもいいかなとも思っています。看護学生を教育することにも少しだけ関心はあります。でもしばらくは臨床でがんばります」と。臨床でがんばる秘訣について尋ねると「私がここまでがんばってこれたのは、病棟にいる同期(入職者)のおかげ。同期とは、ご飯を食べに行ったり、お酒を飲んだりしながら、色々な話をします。そうすると元気になるんですよ。それに、理解を示してくれる先輩の存在。これにつきます」と笑う有賀さん。

看護大学への進学を検討している方や看護大学の在学生へのメッセージとして、「看護大学を卒業すると、病院での看護師や保健師など、色々な選択肢の中から自分の進む道を選択できます。これは本当にいいと思います。また、離島に実習に行くなど、看護の視野が広がるのもいいですね。在学生の皆さんは、実習では、たくさん勉強をして、積極的に患者さんに関わって欲しいと思います。せっかくの実習ですし、期間も限られていますので、積極的に勉強しないと損だと思いますよ。頑張ってください」と語っていた。

*プリセプター:主に新人看護師をサポートする役割を担う看護師を示すときに用いる言葉。



看護師3年目の有賀郁子さん。
電子カルテに患者さんの情報を入力しています。



実習生が病棟にいれば、実習指導もおこなう。学生のために思い、時には厳しくアドバイスすることもあるそうです。



看護大学の実習生とバチリ。本当は、やさしい先輩なんですよ〜と笑顔で対応してくれました。

学生
コーナー

第13回

看大祭

6月4日(土)と5日(日)の2日間、「感動、到来、看大祭」をテーマに第13回看大祭が開催され、1,000人以上の来場者がありました。実行委員長を務めた2年次の我喜屋優太さんは「看護系出展は準備が本当に大変でした。今年度も昨年度と同じように、看護系出展と一般出展の2つのタイプの出展に分かれて取り組み、どちらの出展も盛り上がりました。」と振り返っていました。「例えば応急手当てではAEDの使い方を勉強して、高校生や地域の人たちに使い方を説明したんですが、僕たちにとってメリットになったし、来て下さった方々の役に立てたのではないかなと思っています」と話していました。「来年は後輩が看大祭の企画・運営をすることになります。看大祭の伝統を築いていく気概をもってがんばって欲しい」と後輩に向けてエールをおくっていました。



一般出展:こんなもんやで粉もんや(夕焼け)

看護系出展:性教育

オープンキャンパス 2011

多くの受験生に看護大学を体験して頂くこと、7月30日(土)にオープンキャンパスを開催いたしました。県内外から多数の受験生、保護者、高等学校や塾の先生方などが本学を訪れ、ミニ講義「紫外線と健康」や「保健師ってなあに?」などのプログラムを体験されました。今年度の開催にあたっては、本学全体で行っている活動を受験生の皆さんにPRする企画として、「島しょ保健看護はすばらしい」などのコーナーを設置しました。

さて、オープンキャンパスには、毎年、たくさんの在學生にボランティアとして協力してもらっており、2年次の樋口智美さんもその1人です。樋口さんが担当したのは「やってみよう!赤ちゃんのお世話」と「やってみよう!血圧測定」のふたつ。受験生と関わりながら、たくさんおしゃべりをしたそうです。「バイトをしている塾の教員が来ていました。看護大学のことを話しましたよ。楽しいことも、そうでないことも」と笑顔で話してくれました。「希望している大学は、まずオープンキャンパスに行って自分の目で確かめて、そして、在學生から情報をもたらさうかと思っています」と受験生に向けてアドバイスを送ってくれました。が、そんな樋口さん、県外出身者であるため、本学のオープンキャンパスには参加しなかったそうです。在學生からの情報などもなく本学に入学したわけですが、本学についての感想を尋ねると、ニコリと笑顔を返してくれました。



2年次の樋口智美さん



将来の本学学生として期待できそうです

進学相談をする高校生と相談に応じる本学教授

沖縄赤十字病院でのボランティア

不定期ですが、土曜日になると看護大学の学生が沖縄赤十字病院でボランティアとして頑張っています。ボランティアを提案したのは、3年次の屋宜一馬さん。2年次で行った臨地実習で、看護技術の修得レベルが不十分だと感じたことがきっかけだということです。また、病院の雰囲気慣れたいという思いもあったとのこと。仲間を誘い、病院の看護部長に直接お願いをしたところ、快く受入れて頂き、沖縄赤十字病院でのボランティアが始まりました。

ボランティアの活動内容は、看護助手として物品補充などが主だということですが、看護師さんのお手伝いとして、ケアに入ることもあるそうです。「このボランティアの体験は臨地実習のときに必ず役に立つと思います」と話す屋宜さん。現在は2年次の学生が引き続きいるということで、代表の松村奈津子さんにボランティアについて話を聞いてみました。「現在は8名ほどの学生がボランティアをしています。私たちは今、実習が終わったばかりなんですけど、実習では病院の雰囲気に圧倒されませんでした。病院でボランティアをしていたので、雰囲気になれていたからです。それに、看護技術を具体的にイメージ出来たので、スムーズに実習を行うことができました」と語ってくれました。臨地実習期間中はボランティアを休止していたそうですが、実習が終わったので再開すると意気込みを示してくれました。



最初にボランティアを始めたメンバー 外間海里さん(左端)、比嘉あゆみさん(中央)、屋宜一馬くん(右端)

大学院
修士生にきく

一院生生活を振り返って

博士後期課程修士生 謝花 小百合

「総合病院で10年間看護師として勤務し、実践の場にも慣れ、将来像が描けず迷っていたとき、ドロシー元山先生からハワイでの研究プロジェクトに誘われたことが看護の学びを深めるきっかけになった」と語る。

ドロシー先生の看護師の力量と関心を見極め教育する場面に出会い、感動し、看護教育に関心を持ち沖縄県立看護大学の門を叩いた。博士前期課程では「看護師の死生観とターミナルケアにおけるアウェアネス及びケア行動との関連」をテーマに取り組んだ。2年間があつという間に過ぎ、もっと研究を深めたいと思い、博士後期課程に進学した。研究テーマ「緩和ケア病棟における死別ケアにみる終末期がん患者の家族ケアの構造」について、文献検討、研究計画書作成、研究フィールドでのデータ収集、分析、論文作成と、来る日も来る日も研究に明け暮れた。「袋小路に入り、研究が進展せずつらい日々を過ごすことも少なくなかったが、研究に協力してくれた終末期がん患者の家族に励まされ、その家族への役割を果たしたい一心で励んだ。そして、5年あまりの間、院生生活を最優先して、夫と中学生の息子には不自由な思いをさせてしまったが、見守ってくれた家族に感謝したい。また、研究フィールドの職員及び研究指導教員、大学教員たちは、思考を広げ、深め論理的思考を導いてくれた」と、謝花さんは院生生活を振り返っていた。

修士した今、「お互いに学び合う環境である大学で、教育に携わりながら自己成長を続けたい」と今後の抱負を語っていた。



謝花小百合さん(左)、平成23年修了

発見!

看護大学のおもしろスポット

教育棟4階の情報処理学習室の奥に倉庫があるのを知っていますか?情報処理学習室は、パソコンが整備されており、たくさんの学生が情報検索やレポート作成に利用しています。卒論発表の前には、4年次の学生で混雑するのですが、その奥に倉庫があることを知っている学生や教職員は少ないかもしれませんね。今回、その倉庫を覗いてみました。ドアを開けると、薄暗い中で人体模型たちがお出迎え。その横にはモデル人形がちょっと恐いです。この倉庫、広さは講義室の半分ほどですが、他にもたくさんの模型が所狭しと並べられており、モデル人形や模型の保管場所として使用されているというところでしょうか。そして、さらに奥には、移動書架が!実は、情報処理学習室は附属図書館ができる前までは、図書室として使用されていたということで、倉庫の中にある移動書架はその名残なんだそうです。看護大学に、こんなスポットがあったんですね。ちなみにこの倉庫、関係者以外立ち入り禁止になっており、自由に出入りできませんのでご注意ください。

ここに倉庫の入り口があります

ここは非常口です



情報処理学習室



モデル人形と人体模型たち。モデル人形の1体には「啓子」という名札がついていました。



移動書架